

研究計画調書改善支援 チェックリスト(2017暫定版) 基盤研究A・B・C(一般)、若手研究対応

A: URAがチェックし内容について改善提案する B:URAは 項目の観点で要求を満たしているか(有無)チェック C: URAは積極的なチェックは行わない(気がついたらコメント)

| 項目 | チェック項目 | URA | 確認 | |
|--|--|--|----|--|
| 研究計画調書全体 | 研究課題 | 学術的に見て推進すべき重要な研究課題であるか | C | |
| | | 研究計画全体として整合性があるか | A | |
| | | 申請者の主張や考えが客観的な根拠や理由でサポートされているか | A | |
| | | 予想される疑問・反論に備えているか | A | |
| | | 公募対象外ではないか | A | |
| | 文章 | 主語が明確か | A | |
| | | 「後述する」「その」などの指示語が何を指しているか明確か | A | |
| | | 使用する名称や語句の統一がとれているか | A | |
| | | 専門的な用語を使い過ぎていないか | A | |
| | | 過去、現在、未来、普遍的なことのそれぞれについて時制が適切に表現されているか | A | |
| | 図表・写真 | 図表・写真はグレースケールでも理解しやすいか | A | |
| | | 図表の意味が伝わるか | A | |
| | | 図表中の文字が小さすぎないか、改行位置は読みやすいか | A | |
| | | 研究計画調書は応募年度の様式を使用しているか | A | |
| | 体裁 | フォーマットの罫線を動かしていないか | A | |
| | | 強調部分の体裁(フォント・装飾)が統一されているか | A | |
| | | 記載欄の余白が1割を超えていないか | A | |
| 研究課題名と内容の整合性があり、魅力を伝えているか | | A | | |
| 研究課題名 | | A | | |
| 審査区分 | 応募種目にあつた審査区分を選択しているか | A | | |
| | 適切な審査区分を選択しているか | C | | |
| <研究目的、研究方法など> 自分の研究が「やる価値が有るもの」であり、他と比べてどれくらい独創的か・創造的かを審査員にアピールする | | | | |
| 概要 | 研究の全体構想及び本研究の具体的な目的について、その概要を簡潔に述べているか | A | | |
| | (1)研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、に対応する内容を簡潔に述べているか | A | | |
| (1)研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」 | 自分の研究を含めた広い領域における研究の重要性を簡潔に述べているか | A | | |
| | その領域における未解決問題を指摘し、それに対する取り組みを述べているか | A | | |
| | 申請者がこれまでに未解決問題の解決のためにどこまで研究を達成しているかを述べているか | A | | |
| | これまでの申請者の研究の問題点を述べているか | A | | |
| | 業績欄に記載のある論文や業績欄にはないが過去に申請者が行った実績を引用しているか | A | | |
| | 本研究の必要性(なぜこの研究が必要か)を論理的な観点で理解してもらえる内容か | A | | |
| | 提案する研究課題の核心をなす学術的「問い」=(学術的に解明したい謎(知りたいこと)や、学術的に解決したい課題)について簡潔に説明できているか | A | | |
| (2)本研究の目的および学術的独自性と創造性 | 目的や学術的独自性と創造性を直接的な表現で述べているか(例:「研究の目的は〇〇である」など) | A | | |
| | (必要なら)第三者の論文を引用し客観的な証拠を示すとともに、自分の未発表データや予備データなどで方向性の正しさを主張できているか | A | | |
| | 自分がこの研究をするのはなぜか、自分のオリジナリティ、独自性は何かを述べているか | A | | |
| | 問題を解決できる新しいアイデア・手法・コンセプトを提案しているか(創造性) | A | | |
| | この研究が完成した場合に自分の領域や他の研究領域にどのような展開が期待できるかを説明できているか | A | | |
| | この研究が完成した場合に、社会に対してどのような影響を与えるか、それがいかに重要であるかを説明できているか | A | | |
| (3)研究期間内に何をどこまで明らかにするか | 申請者が研究期間内に、「何を」「どうやって」「どこまで」明らかにしようとするのか明確に述べているか | A | | |
| | 研究期間内に「できること」ではなく「明らかにすること」を述べているか | A | | |
| | 研究期間の「いつ」「どのような」研究を行うか明確に述べているか(年度計画表を用いると良い) | A | | |
| | 実験や手法の説明に終始していないか | A | | |
| <本研究の着想に至った経緯など> 自分の研究計画が他と比べて、どれくらい重要か・成功する可能性が高いか、を審査員にアピールする | | | | |
| (1)本研究の着想に至った経緯など | 自分の研究を含めた広い領域における研究の重要性を踏まえて、本研究課題の着想に至った経緯を簡潔に述べているか。 | A | | |
| | 自分の過去の業績、成果、経歴などを交えつつ、論理的に主張できているか | A | | |
| | 他の研究者が持っていないノウハウ、知見、実験結果などをアピールできているか | A | | |
| | 文章の時制は的確か(過去の取り組みは過去形にするなど) | A | | |

| 項目 | チェック項目 | URA | 確認 |
|--|--|-----|----|
| 44 | 自分の研究を含めた広い領域における研究の国内外の主な研究について簡潔に述べられているか。 | A | |
| 45 | それらの研究と自身の研究についての位置づけ、距離感が分野外の者にも理解できるように見積もられているか。 | A | |
| 46 | 自身の研究についての本研究課題の位置づけが明確に述べられているか。 | A | |
| 47 | (必要なら)第三者の論文を引用し客観的な証拠を示すとともに、自分の未発表データや予備データなどで方向性の正しさを主張できているか | A | |
| 48 | (2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ 本研究課題の研究対象、研究手法やもたらされる研究成果について、独創性や革新性を主張できているか | A | |
| 49 | この研究が完成した場合に自分の領域や他の研究領域にどのような展開が期待できるかを説明できているか | A | |
| 50 | この研究が完成した場合に、社会に対してどのような影響を与えるか、それがいかに重要であるかを説明できているか | A | |
| 51 | 関連研究分野の進展に対する大きな貢献や新しい学問分野など学術的な波及効果を主張できているか | A | |
| 52 | 科学技術、産業、文化など幅広い意味で社会に与えるインパクトや貢献が主張できているか | A | |
| 53 | (3)準備状況と実行可能性 自分の予備データや文献を引用し、計画している方法(実験・手法)が実現可能であることを説明できているか | B | |
| 54 | 当初計画どおりに進まないときの対応を説明できているか | A | |
| 55 | 1つの研究項目の成否がプロジェクト全体の成否につながらないように計画しているか | A | |
| 56 | 本研究を遂行する上での具体的な工夫を述べているか(効果的に研究を進める上でのアイデア、効率的に研究を進めるための研究協力者からの支援等) | A | |
| 57 | 研究計画を遂行するための研究体制について、研究代表者及び研究協力者の具体的な役割を示しているか(図表を用いると良い) | B | |
| 58 | 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況を述べているか | B | |
| 59 | 研究協力者がいる場合には、必要に応じその者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況を述べているか | B | |
| 60 | (4)これまでの研究活動【基盤A・B・C】 これまでの研究活動と今回応募する本研究計画との関連性をアピールできているか | B | |
| 61 | 研究活動を中断していた期間がある場合には、その理由を含め簡潔に説明されているか | B | |
| 62 | これまでに採択された研究費での成果をアピールできているか | B | |
| <これまでの研究活動>自分の研究遂行能力が他と比べてどのくらい高いのか、を審査員にアピールする【若手】 | | | |
| 63 | 研究履歴 現在に至るまでの研究歴について、現在から順にさかのぼって記載しているか | B | |
| 64 | 現在に至るまでの研究活動について、その内容を簡潔に述べているか | B | |
| 65 | 研究活動を中断していた期間がある場合には、その説明を述べているか | B | |
| 66 | 研究内容 これまでの研究活動と今回応募する本研究計画との関連性をアピールできているか | B | |
| 67 | いままで行ってきた研究の内容と、採択された研究費、研究業績、受賞歴、特許等を紐付けてアピールできているか | B | |
| 68 | 研究業績 現在から順に発表年次を過去にさかのぼって記載しているか | B | |
| 69 | 通し番号を付して記載しているか | B | |
| 70 | 発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記載しているか | B | |
| 71 | 研究代表者(申請者)に下線を付しているか | B | |
| 72 | 研究計画最終年度前年度の応募を行う場合の記入事項【基盤A・B・C】 該当する場合、その研究によって得られた成果と、再構築して今回応募する理由を述べているか ※この欄に記述した継続研究課題の研究成果等は「これまでに受けた研究費とその成果等」欄に記載しない | B | |
| 73 | 人権保護及び法令等の順守 相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続が必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じているか記載しているか | B | |
| 74 | 研究経費とその必要性 研究計画に記載した経費がもれなく計上されているか | C | |
| 75 | 研究計画に記載していない大きな経費が計上されていないか | C | |
| 76 | 備品の品名・仕様が記載されているか | C | |
| 77 | 経費の内訳が一つの項目に偏っていないか | C | |
| 78 | なぜその経費が必要なのか簡潔に説明しているか | C | |
| 79 | 研究費の応募・受入等の状況 エフォート欄の合計が100%を超えていないか | C | |
| 80 | 各項目のエフォートが極端な値(0%や100%)になっていないか | C | |
| 81 | 「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記載しているか | C | |
| 82 | 研究内容の相違点を述べているか | B | |
| 83 | 所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても記載しているか | C | |